

私達の宝、前会長さん 今まで本当に有難うございました



夕張大教会五代会長

藤田文雄様、
お出直し

ひきよせ

発行所

天理教夕張大教会

〒068-0029 北海道
岩見沢市9条西6丁目21

☎ 0126-22-1248

FAX 0126-23-7275

yubaridai146@gmail.com

ホームページ

bariten.main.jp



LINE 友達登録
お願いします

追悼号

既報の通り、8月30日、藤田文雄夕張大教会五代会長が出直された。
今回は、ひきよせ追悼号として、藤田文雄前会長を偲び、ご生涯を振り返るとともに、御生前最後のお姿を偲ぶ。

8月19日、美重子夫人が会長を務める札幌分教会祭典日の朝、前会長は脊髄の辺りに激しい痛みを感じ、おさづけを取り次いで貰い、自ら救急車を呼んだ。長年のおたすけ経験から「大動脈解離だと思っ」と救急隊員に伝え、自分で救急車に乗り込んだ。

その後札幌市内の病院に搬送、「急性大動脈解離」と診断され、直ちに緊急手術が行われた。手術室へ向かう前会長は、駆け付けた長女さんに対して気丈に言葉を掛け、手術に臨まれた。

大動脈の解離は、心臓直上の最も重要な部分から下半身近くまで及び、傷ついた血管は人工血管に置換され、同時に心臓の弁の一部も人工の弁に取り替え、手術は10時間に及んだ。大教会長は夕張部内を始め、広く信者・教友へ前会長の手術を伝え、共に無事を祈って頂けるようお願いした。

夕張大教会の世話人、松田先生にもいち早くお伝えし、先生は急ぎ親神様をお願いして下さり、更に夕張の上級・兵神大教会長様も、直ぐにおちばの甘露台へ駆け付け、平癒を願って下さった。世話人先生よりご指導を頂き、教主真柱様へは急ぎFAXにてご報告申し上げた。多くの人の思いが通じ、手術は成功した。その後、心臓周りの出血が止まらない事から夜間に再び開腹手術が行われ、血は止まった。明けて20日朝、一同胸を撫で下

ろしていたが、午前9時半頃、前触れなく突

如として容態が悪化。心臓が二度止まってしまわれた。その場合は何とか持ち直したものの、起きてはならない事が起きてしまったと、急ぎ家族が集められた。血圧、脈拍が通常の半分となり、医師からは最後通告が出され、最後に何をしたいかと尋ねられたので、

決死の思いで大教会長は出来る限りの人々にメール連絡で添い願いを乞い、おさづけを取り継ぐと、その直後から心拍、血圧は正常値に戻った。奇跡に喜んだのも束の間、重篤な状態は変わらず、美重子夫人を始め次々にICUへと駆け付けた娘達も、夜を継いで、何度も何度もおさづけを取り次ぎ続けた。

それに呼応するように、各教会、信者宅でも連日連夜お願いつとめが始まり、日を追うごとにその動きは広く遠く繋がっていく。道内・道外や、部内・部外に拘わらず、多くの方が祈りを捧げた。

こんな時こそ、たずかる種を伏せ込む為、大教会長はおちばへと向かった。

23日兵神大教会へ参拝。大教会長様にお礼を申し上げ、おちばへ移動。本部では松田世話人先生にお礼とご報告。更に真柱様へ前会長の身上をご報告した。真柱様はこれまでの経緯を踏まえ、「辛いやろうけど頑張つてな」とお声を掛けて下さった。24日、世話人先生は大教会長と二人でお願いつとめを勧め、「引き続き、願いつつていきましょう」と力強く励まされた。

大教会長は24日本部神楽当番、26日本部月次祭にて楽人奉仕、かぐらづとめ、てをどり、を唱和。回廊ひのきしん、真柱宅のひのきしんと、いつも通り精一杯務め、27日午前の飛行機で北海道へと戻った。

その前後、家族は再び医師から最後の宣告を受けた。だが前会長は意識こそ戻らないものの、自らの力でしっかりと呼吸を続けていた。しかし腎臓の機能が大きく低下し、予断を許さない状況が続く。

部内一同は心を揃え、必死のお願いつとめを続けた。大教会にて十二下りのお願いつとめが勤められ、時を同じくして教務支庁でも教区長を中心に多くの人が集まり三日間のお願いつとめが行われた。どうしても諦められないと、大教会長は役員を始め、前会長を慕う人々へ次々に電話を掛け、耳元に携帯電話を当てるので、呼びかけてくれるようお願い。皆一様に前会長の名を叫び、涙した。

「もう一度元気なお声を」と乞い願いつつた一同であったが、如何なる親神の御計らいか、8月30日、台風之余波で降り続いた大雨が突然止み、札幌の空が一面眩しい程に晴れ渡った正午過ぎ、ついに呼吸をされなくなり、午後1時7分、前会長は苦しみ事なく安らかに出直して行かれた。父である増平会長のご寿命を半年だけ追いついて、親孝行されたの旅立ちである。享年76歳。最後の最後まで、おたすけに奔走し、人の心を救いつつ、笑顔を送り続けた生涯であった。

葬儀は9月1日にみたまうつし之儀、翌2日に葬葬之儀が、松田理治世話人先生を齎主に執行され、600名を超える教友が詰めかけ、また台風直撃の日本列島にあつて、葬儀場や大教会に届けられた弔電、手紙は200を超えた。多くの人々に心から慕われた人生であった。

夕張

夕張大教会長 藤田大和

寒い北海道の朝。神様の御酒を注ぎ、御水を用意する頃、「おーい、おはよう。」と声が出る。34年務めた大教会長職を交代してから、毎朝必ず起きて来てくれた。ただそれだけの事をなぜ、こんなにも恋しく想うのか。父に捧げる『ひきよせ追悼号』を作る運びとなり、祖父の時に父がそうしたように、私も又、父の事を書く事になった。五十日祭迄には原稿を間に合わせる予定だったが、何度机に向かっても書けなかった。

8月19日。父が倒れたあの日から12日間。夢中で願いつつ続けた日々は、精一杯、父の身の上と向き合い、何もかも親神様にお礼申し上げ、神様の思召の世界に全身全霊、飛び込む事しか考えなかった。

出せる心は全て出した。出来ることは全てやると本気で思うし、だからこそ、早すぎた父の出直しに触れても、ここまでやった先にお見せ頂いた事なのだから、これが親神様のお慈悲なのだ。納得が出来た。悔いは無い。その筈だったのだが…。

文字にしよと思う起こすと、眼前に父が鮮やかに蘇り、語りかけて来る。…何も書けなくなるのだ。今の自分にとつて書く事は、最も落ち込む行為なのだ。分かった。

もう一つ、辛い事がある。父が、祖父が、夢にまで見て、皆様の誠真により建った夕張詰所。立派に竣工した後、土地だけは借地のままで月々ずっと払い続け、後に

やっとなり取れる話になった時には「詰所一坪運動」として、皆で土地を一坪ずつ買うぞ！と夕張中が躍起になったと聞く。

当時高校一年生の自分にも父は、「お前も一坪買うんだぞ！」と強く言った。数年前、17年間に及んだ全ての支払いを漸く終え、直轄教会、部内教会、信者の皆様から頂戴した血と汗の結実たる真実のお供えは、億の額を数えた。今、夕張は教会歴史上ほぼ初めて、何の借金も無い時を過ごしている。

あの時自分も、詰所の土地買収に参加させて貰って心から良かったと思える。「ここが故郷ぢばの、我ら夕張の詰所だ。この場所、誰もが皆、温泉に浸かるがごとく、北海道で苦勞して来た心と身体を癒し、真実の親神様に甘え、おやさまに学び、これからの社会で人をたすける為、神の用木に育つんだ」と、そういう心意気が父の言葉の端々に漲っていた。その詰所の二階にある会長宅は、私が天理の高校へ行って以来この歳まで27年間、父と一番長く過ごし、語り合った場所かもしれない。

学生時代、青年時代、自分の事や、お道の行事など、どんな事で悩み、どんな顔で詰所へ会いに行つても、全てを解つてくれる笑顔で私を迎え、知らない話を沢山聞かせてくれた。お世辞抜きに、大学の頃などは、真理を見抜く高い見識と、柔軟で情に厚い価値観を持ち合わせた父と話すのが一番楽しかった。信仰、歴史、経済、地政学まで、沢山一人で語り合い、父の心を教わった。だから今、おちばへ帰り詰所の会長宅に入るのが辛い…。

父が先に着いていたなら「ただいま」と

言い、こちらが先なら「おかえり」とずつと言ってきた。父との挨拶を欠かした事は無い。だがもう言う相手が居ない…。分かっていても「ただいま！ 父さんお疲れ様」と言わずに居られない。寝所には綺麗に干したままのシャツと、次に履くはずだった靴下。父のはつぴ。部屋の通路には仲良く掛けた二人分の教服。流石に教服はサイズが合わないので、今後は笄板と冠だけ、父の物を借りる事にした。部屋に微かに残る、父の整髪料の香りに胸が詰まる。ご先祖様の神棚では、真新しい父の遺影がいつもの笑顔で待っている。

私は北海道では、会長であり家長である立場上、よほどの時以外には気を保っていられるのだが、この父の前でだけは、昔握ってくれた手の厚みや、背負ってくれた背中が思い出されて、気持ちを抑えられない。父と祖父が愛した話所は、私にとっても一層愛おしく、そして切ない場所となった。

「多くを語らない父でした」とは世間でもよく聞く話だが、うちの前会長さんは、思いつくと笑ってしまうくらい多くを語った

会長として最後の祭典後、花束を受け取る前
会長様と美重子奥様（2021年6月15日）



（笑）。寡黙、無骨とは程遠い、明るい声と豊かな表情。自らの信念に突き進むが、それでいて緻密に、繊細に人を気遣い、自分は照れ屋。出会い頭に、相手が何を言われたいのかが、本能的に分かる人で、知らず知らずの内に人を励まし、勇気づけている事に、ご本人が気付かない節もあり、周囲から見れば、何と絵に描いたような陽気暮らしのお方だと思われて来た事だろう。しかし父にすればその姿は、子供の頃か

父が好きだったもの。美しい風景ではなく、其処で自分を待つて居てくれる人。美味しいご飯ではなく、一緒に食べてくれる人。珍しいお酒などでは勿論なく、一緒にそれを飲んでくれる人。景色も、食べ物も、飲み物も何でも良い。味も気にしない。旅行も喜ぶが実はそれほど興味が無い。父が好きなのは、用木、信者さん、友人、家族、どこまで行っても人、人、人。こんなに人間を愛した方を私は知らない。

ゲームや、キャンプ、お泊まり会で喜ばせ、学生達の声に耳を傾けて来たと聞く。その原動力は、おたすけに忙しい親達に代わって、自分が子供達を喜ばせ、決して寂しい思いはさせないという気概であった。自らは人に言えない寂しい少年時代を過ぎながらも、慈愛に満ちた祖父母の心をおもんばかり、汲み取って、息子として安心させたかったのだろう。いつからか、私にも似た思いが芽生えたように思う。

ある時父がふと、こぼした。「増平」おじいちゃんは、東大まで出て、とつても頭が良くて、話していると先生と生徒みたいになつてしまうんだ。尊敬という言葉では言い尽くせない程慕っていたんだが、只なあ、若い頃『君はね』と『君』で呼ばれる事が少し寂しかったよと。大戦で負けて、中国から命懸けで帰国し、戦後は目が回るほど苦労されて、信者さん方への丹精に回り続けた祖父であり、それを支えた祖母であつた為、仕方がないとはいへ、両親の顔を忘れる程、いつも親戚に預けられて育つた父は、その寂しさを蹴散らすように元気に生きてきた。

自分の時間を全く作るうとしない。普通は誰かと長く居すぎると、格好の悪い自分を見せてしまう時が来るので、人付き合いに一定の区切りを設けたいものだが、父はずつと誰かと居る。今日、会って喜ばせられる相手を探している。誰と居ても、相手に世話を焼き、自分は何でも喜んで頂くが、身の回りの事はまるで隙だらけだ。恥ずかしい自分も気にせず見せ、人から笑われて嬉しそうにとぼけている。何という人生の極意か。

もうこれでペンを置くが、二、三年前だったか、二人で居酒屋で話した時、私はこんな質問をした。「父さんは、子供の頃よく遊んでくれたような、忘れられない人はいいる？ 僕は小学校の時、学校にも教会にも友達居ない僕と、家から離れた公園で、何度も日が暮れるまでサッカーで遊んでくれた年上のお兄さんがそうなんだ。どこに家があるのかも知らないんだけど、思い出すと泣けてくる。自分もそういう人になりたいと思うんだ」と。

その活発さゆえに、周りは誰も心配しなかつたであろう想像がつくが、その実は、心に決して埋まることの無い、ただ親と一緒に居たかつたという寂しさがあつた。これは愚息の想像だが、父は私に度々、人生の孤独、信仰者の孤独、会長の孤独を語つた事からも、確かであろうと思う。

父は天理高校時代、求道部（信仰活動の部活）の幼少年指導班へ入部し、最後は班長も務めた。そこを原点に、長く少年会員のお世話、学生会員とのコミュニケーション等をおちばで学び続け、青年会のひのきしんで、おたすけの心を磨き、夕張へ帰ってくる、それはそれは見事に、子供達を

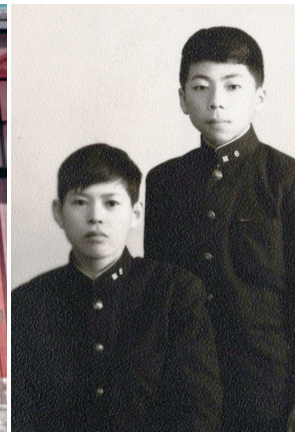
父の葬儀にあたり、多くのお力添えを頂き、大勢の方々が、共に涙し、見送って下さいました事は決して忘れません。また多大なるご弔意、玉串料を賜り感謝に堪えません。心よりお礼申し上げます。誠に有難うございました。（11月9日記）



⑤



④



③



①



②

昭47・1・15
昭46・5・27

青年会夕張分会委員長拝命
修養科修了

昭46・3

天理大学外国語学部英

米学科卒業。兵神大教

会青年づとめとして、

詰所勤務【⑤】

が発足【④】

天理大学外国語学部英

米学科進学。このころ、

「サンヤングクラブ」

が発足【④】

天理大学外国語学部英

米学科進学。このころ、

「サンヤングクラブ」

が発足【④】

天理大学外国語学部英

米学科進学。このころ、

「サンヤングクラブ」

が発足【④】

天理大学外国語学部英

米学科進学。このころ、

「サンヤングクラブ」

が発足【④】

天理大学外国語学部英

米学科進学。このころ、

「サンヤングクラブ」

が発足【④】

天理大学外国語学部英

米学科進学。このころ、

「サンヤングクラブ」

が発足【④】

天理大学外国語学部英

昭39・4

天理高校に入学【③】

北寮のすきやき会は、

「僕が自治会長のと

きに交渉して成し遂げ

た」と話す

おさづけの理拝戴

天理大学外国語学部英

米学科進学。このころ、

「サンヤングクラブ」

が発足【④】

天理大学外国語学部英

米学科進学。このころ、

「サンヤングクラブ」

が発足【④】

天理大学外国語学部英

米学科進学。このころ、

「サンヤングクラブ」

が発足【④】

天理大学外国語学部英

昭31・4

父・増平の御用の関係

から、7歳まで兵神詰

所で育つ【①、②】

岩見沢南小学校から光

陵中学校へ

中学三年時、五日隊ひ

のきしん参加。天理高

校生の姿に感動。天理

高校入学を約す

令6・3

社会福祉法人恵愛学園
理事長

令6・3

国道見守り隊【⑦】

ポーターで出演

(養徳社) 始まる。リ

YouTube「ふふさんぽ」

氏に譲る

F Mラジオ「はまなす」

のパーソナリティ

大会銅賞

大教会長を、息子大和

氏に譲る

FMラジオ「はまなす」

のパーソナリティ

大会銅賞

大教会長を、息子大和

氏に譲る

FMラジオ「はまなす」

のパーソナリティ

大会銅賞

大教会長を、息子大和

氏に譲る

FMラジオ「はまなす」

のパーソナリティ

大会銅賞

大教会長を、息子大和

氏に譲る

FMラジオ「はまなす」

のパーソナリティ

大会銅賞

大教会長を、息子大和

氏に譲る

FMラジオ「はまなす」

のパーソナリティ

大会銅賞



⑦



⑥

藤田文雄前会長様 略歴



Fujita Fumio
Photo Gararry
フォトギャラリー



会場では、振り返り映像を上映



令人（楽人）による奏楽



松田先生、ご教話



宮本葬儀委員長のあいさつ



前会長を偲び、涙した



御亡骸との最後のお別れ



葬後霊祭も厳かにつとめられた

14 時 00 分

ピッチで行う。

15 時 00 分

会長室にて納棺。

15 時 20 分

松田先生、齋員、齋場に入る。すぐに、祭壇前にて入念なりハーサルを行う。

15 時 30 分

前会長のお棺が大教会を出発。一度神殿までお棺を運び、全員で参拝したのち、遺族や青年の手で車に乗せられる。

16 時 30 分

前会長のお棺が齋場に到着する。

18 時 00 分

第一齋場にて、随時参拝が 17 時 30 分まで行われる。

みたまうつし之儀、教会葬として、松田先生を齋主に執り行われる。

700 名超の方が参列し、用意した二会場の椅子は全て埋まり、立ったままの参列者も多かった。

みたまうつし之儀には、東中央会長、津軽会長、雨龍前会長、網走会長夫妻、教区長夫妻、南空知支部長が参列。

19 時 00 分頃

みたまうつし之儀が終了。ご遺族・ご親族が祭壇前にて写真撮影。松田先生はこの日の夕食をご遺族と共にとられ、その後ホテルへ。

お棺、仮の霊舎が遺族控室へ運ばれ、最後の夜を家族と過ごす。

9 月 2 日 (月)

6 時 30 分

大教会にて、朝づとめが勤められる。

6 時 45 分

朝食。それぞれが準備の為、慌ただしく食事をとる。

7 時 30 分

係員集合。直ちにそれぞれの動きに移る。

8 時 00 分

お棺、仮の霊舎が遺族控室から第一齋場へ。

8 時 30 分

松田先生、齋場に到着。

8 時 30 分

第一齋場にて、随時参拝が 9 時 30 分まで行われる。

10 時 00 分

松田先生を齋主に、発葬之儀が執り行われる。参列者は前日のみたまうつし之儀から落ち着きを見せたが、それでも第一・第二齋場とも用意した椅子は全て埋まった。

発葬之儀には、兵神奥様、飾東会長、神崎会長夫妻、空知会長、東中央会長、津軽会長、雨龍会長、網走会長夫妻、繁藤前会長、教区長夫妻、南空知支部長夫妻、岩見沢市長が参列した。

12 時 00 分

参列者が前会長様と別れのあいさつを交わし、多くの人に送られ、齋場を出棺。道中、バスは幼少時より長らく過ごし、会長を務めた夕張大教会の門前でしばし留まり、名残惜しそうにゆっくりと火葬場へ向かった。

火葬場へは 50 人程の遺族が一緒に向かった。

15 時 00 分

第一齋場にて、松田先生を齋主に葬後霊祭が執り行われる。

15 時 30 分

松田先生、ご出発。18 時の飛行機にて帰路に着かれた。葬具撤収後、大教会へ。葬儀のお下がりが、各教会に配られた。

8月30日(金)

- 13時07分 前会長様出直。大教会長より、各役員へ訃報連絡が入る。
- 14時00分 大教会、受け入れ準備開始。神殿や玄関を、集まった方で綺麗に掃き清める。各種葬具や弔問者・宿泊者の受け入れの準備も慌ただしく始まる。
- 14時36分 大教会長より、部内に訃報LINEが一斉に送られる。
- 16時00分 病院よりの途次、ご遺体を乗せた車は教務支庁へ。教区長をはじめ、多くの方がハッピー姿で出迎え、教区への長年の功労に、一同感謝の念を捧げた。
- 16時20分 会長の配偶者として支え、晩年おたすけの拠点として過ごした札美分教会へ。
- 17時30分 前会長様のご遺体が、大教会へとご帰会される。会長室内の和室へと安置される。
- 18時00分 直轄・部内会長および信者、教区長夫妻、南空知支部長夫妻などが弔問に訪れる。
- 21時00分 台風接近により、31日以降の来道が危ぶまれた為、急遽出発された松田世話人先生、新千歳空港に到着。高橋役員の手で大教会へ。
- 22時20分 松田先生、大教会にご到着。弔問のち、31日からの動きについて、大教会長と打合せを行う。滞在中は岩見沢市内のホテルへご宿泊。

8月31日(土)

- 9時30分 総務、役員打ち合わせ。葬儀における、各役割が決定される。
9月1、2日で葬儀を執り行う事に決まる。
斎場がやわらぎ斎場岩見沢西に決定。2階斎場を第一斎場、1階斎場を第二斎場として行う。
- 10時00分 真柱室をはじめ、各所に出直の連絡を送る。庶務係は宿泊部屋の準備、炊事係は昼食の準備に汗を流す。各部準備の最中も、弔問客が絶える事無く訪れる。
- 12時00分 松田先生、大教会へ。
- 13時00分 松田先生を交えて、葬儀の打ち合わせ。その後斎員は、神殿で葬儀式のリハーサルを余念なく行う。
- 17時00分 松田先生を斎主に、会長室和室にて、仮通夜之儀が執り行われる。
- 17時30分 兵神大教会の奥様が、ご弔問に。
- 18時00分 松田先生、会長と夕食をとり、その後ホテルへお戻りになる。
- 18時50分 祭儀係は葬具の確認や四垂作成など、翌日からの葬儀の為、大忙しで準備を進める。婦人会は松田先生着用の重服にアイロンをかける。

9月1日(日)

- 9時00分 祭儀係、神饌物の買出し。
- 10時00分 幌都分教会より神饌物の青果が届く。
- 12時00分 松田先生、大教会へ。係員と打合せを行う。
- 13時00分 係員が集合。参拝のち諸連絡。
- 13時40分 時間を早めて、夕づとめを勤める。
- 13時50分 祭儀事前準備組が会場に入り、会場づくり、調饌を急

葬儀記録

【立教 187年 8月30日～9月2日】



松田先生、おちばよりご到着



総務、役員打合せ



松田先生との打合せ



みたまうつき、調饌



前会長、斎場へ出棺



大勢の参列者であふれる

弔辞・弔電

五代会長のお出直しを悼み道の上に
尽くされた長年の労をねぎらい心から
お悔やみ申します。

天理教会本部 真柱 中山善司

御尊父様お出直しの報に接し、長年の
御功績に敬意を表するとともに、心か
らお悔やみ申し上げます。

天理教表統領 中田善亮

藤田文雄先生の訃報に接し、謹んで
哀悼の意を表します。

改めて穏やかな暖かいお人柄を偲び、
頂戴したご交誼に心から御礼申し上げ
ます。ありがとうございます。

本部長 安野嘉彦

藤田文雄先生の突然のお出直しの報
に接し、驚きとともに、心よりお悔や
み申し上げます。先生とは、かつて私
が海外部次長時代、ともに樺太に行か
せていただき、戦前の教会跡を訪ね先
人のご苦労を偲びました。忘れ得ぬ生
涯の思い出となっています。

また養徳社の上にはYouTube上で
「ふんざんぼ」という楽しい企画を進め
ていただき、ご協力を賜りました。

ここにご生前中のご厚誼に対し、心
より厚くお礼申し上げます。先生、本
当にありがとうございました。

本部長・養徳社社長 永尾教昭

この度はご主人様の訃報に接し何と
申し上げて良いのかお慰めの言葉も見
つかりません。ご家族様のご悲観はい
かばかりかと存じますが、1日も早く
お心の痛みが癒えますよう、心よりお
祈りいたします。

恵愛学園さくらぎ保育園 園長 大和力

お道の大先輩、藤田文雄先生のお出
直しを悼み、謹んでお悔やみ申し上げ
ます。お別れにも伺えず残念でなりま
せん。教会長として、教区長として、
あとを追い続けて30年。数々のアドバ
イスと素敵な笑顔を思い浮かべ生前中
のご厚情に心から哀悼の意を表します。
天理教警城平大教会前会長 平澤勇一

じいちゃんへー

僕がじいちゃんの最初の孫として生
まれてから17年もの月日が経ちました。
僕の心のなかには今までのおじいちゃ
んの思い出が鮮明に残っています。

北海道に帰ったときにはでっかい
スクリーンで映画を見せてくれたり、
時々、埼玉に来てくれた時には、決まっ
て沢山の菓子パンを持ってきてくれた
り、僕たちが学校に行くときには歩い
てお見送りに来てくれました。僕が幼
い頃はきつと素直におじいちゃんとお
話ができいましたが、段々と思春期
になって素直になれないことが増えて
いきました。

そんな僕も今年で17歳、来年には成
人し、大学生になり、きつと今よりも
おじいちゃん孝行ができたことでしよ

う。おじいちゃんが倒れたのはそんな
矢先の出来事でした。

あんな元気なおじいちゃんだから
きつとまた意識を取り戻すだろう、そ
う願っていました。その願いは叶わ
ず。僕はまだ、大学や、将来の夢、初
めて別席に参加したことなど、まだま
だおじいちゃんに話したいことがたく
さんあります。

おじいちゃんは、俺は幸せだから、
いつ死んでも大丈夫と言っていました
が、僕たちからしたらやっぱり早すぎ
るなあと思つてしまいます。

あと1年あれば、大学入学の報告が
できたかもしれないのに、あと2年あ
れば、お金を貯めて一人で北海道に帰
れたかもしれないのに、あと3年あ
れば、二十歳になり、お酒を飲みながら
色々なお話ができたかもしれないのに、
と思うと悔しくてなりません。

おじいちゃんに恩返しするのはまだ
まだこれからでした。

そんな僕にも今では夢があります。

おじいちゃんには伝えられませんが
ですが、困っている人をたすける仕事
なので、きつとおじいちゃんも喜んで
くれると思います。

簡単に叶えられる夢ではありません
が、おじいちゃんのような人に少しで
も近づけるように、一期一会を大切に
これからも精一杯に生きていくので、
どうか天国で見守っていてください。

孫代表 塩田元弥

全てをご紹介できませんこと、
心よりお詫び申し上げます

●葬儀役割

○顧問 梶川卓一、藤田好道、中右喜久雄

○葬儀委員長 千葉宏司、藤崎実

○副委員長 宮本和昭

○副委員長 高橋太志

○委員 竹田勲、岩佐一昭、梶川創一郎、
西尾正行、佐藤大輔、富山睦信、
藤田豊、富山知一、千葉祐生

○総務 (葬儀委員長以下委員)

○庶務係 藤田豊、岩佐善昭、千葉真理、
藤田亮平、齋藤智明、渡部進

○会計係 竹田勲

○祭儀係 西尾正行、千葉祐生

○接待並びに一般炊事

梶川洋子、富山真理子、竹田愛子、
高橋多江子、西尾貴子、佐藤千晶、
富山文恵

○電話係 藤崎勇、高橋悟志

○送迎係 梶川文吾

○司会 富山ゆかり (教服着用)

●葬儀齋員

齋主 松田理治本部長

副齋主 梶川卓一

祓主 竹田勲

大麻 藤崎実

後取 西尾正行、齋藤真善

龍笛 ○渡部修太、渡部修

箏 ○千葉祐生、渡部辰大

太鼓 ○千葉真理、佐藤大輔

第二会場

志水隆、梶川文吾、藤崎利男、竹田元